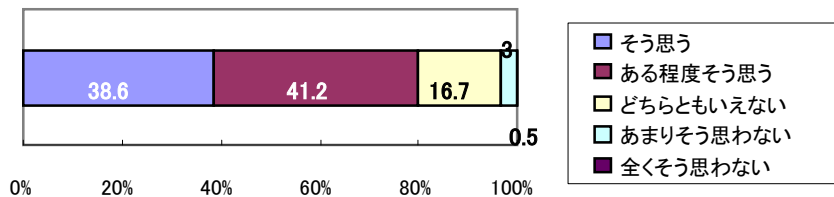
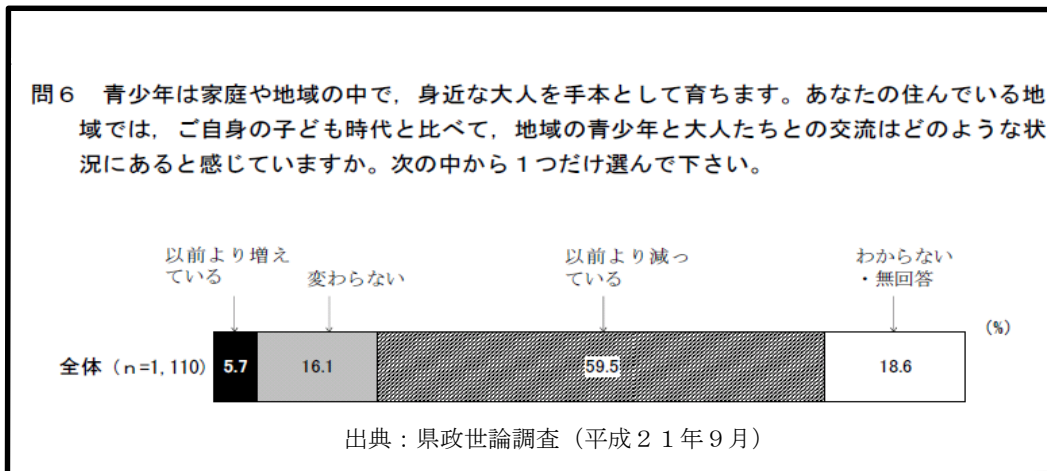


【図表 1 - 1 家庭の教育力の低下（全国）】



調査対象：0歳～18歳の子どもの持つ20歳～54歳の父母3,000人
 出典：文部科学省「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」（平成20年度）

【図表 1 - 2 地域の青少年と大人たちとの交流（茨城県）】



【図表 1 - 3 国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2007）】

【教科別の結果】（平均得点：全生徒の平均得点を500点、全生徒の3分の2が400点から600点に入るように標準化した各国の得点）

学校種別	2007年調査結果 (36カ国)	前回(2003年)の調査結果 (25カ国)
○小学校		
算数	568点 (4位)	565点 (3位)
理科	548点 (4位) 3位の香港と有意差なし	543点 (3位)
○中学校		
数学	570点 (5位) 4位の香港と有意差なし	570点 (5位)
理科	554点 (3位) 2位の台湾と有意差なし	552点 (6位)

(※ただし、2007年調査結果はいずれの教科も平均得点はすべて前回以上であるが、統計上の誤差を考慮すると前回と同程度となる。)

【わが国の児童生徒の特徴】

- 算数・数学、理科に対する意識等については、
- ・ 勉強が楽しいと思う割合は、前回調査と比べ、小学生では増加傾向が見られ、特に理科で国際平均を上回ったが、中学生は国際的に見て数学・理科ともに依然低い。
 - ・ 希望の職業に就くために良い成績を取ると思う中学生は、国際的に見て依然として少ないが、前回調査と比べて数学・理科ともに増加傾向。
- 学校外での時間の過ごし方については、
- ・ 依然として宿題をする時間が短く、テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い。
 - ・ 小学生の宿題をする時間は増加傾向。

出典：国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2007）のポイント（文部科学省）

【図表 1 - 4 日本の15歳生徒の学習到達度国際順位】

	2000年	2003年	2006年
科学的リテラシー	2位	2位	6位
読解力	8位	14位	15位
数学的リテラシー	1位	6位	10位

出典：PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）2006

【図表 1 - 5 平成21年度全国学力・学習状況調査結果】

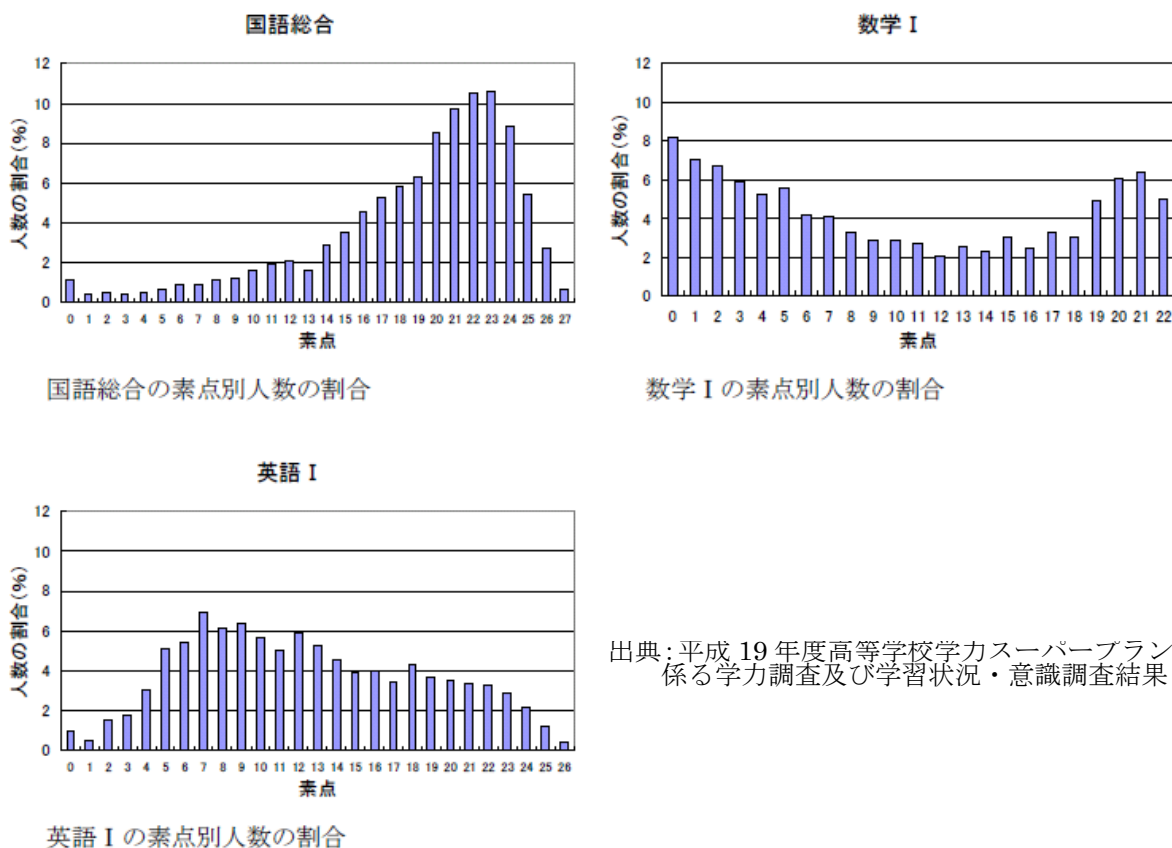
【国語】

	小学6年		中学3年	
	知識	活用	知識	活用
茨城県	68.90%	50.70%	77.60%	75.80%
全国	69.90%	50.50%	77.00%	74.50%
比較	-1.00%	0.20%	0.60%	1.30%
順位	33位	22位	26位	20位

【算数・数学】

	小学6年		中学3年	
	知識	活用	知識	活用
茨城県	77.10%	53.50%	60.90%	56.60%
全国	78.70%	54.80%	62.70%	56.90%
比較	-1.60%	-1.30%	-1.80%	-0.30%
順位	41位	29位	42位	31位

【図表 1-6 県立高等学校の生徒の学力調査結果（茨城県）】



出典：平成 19 年度高等学校学力スーパープランに係る学力調査及び学習状況・意識調査結果

【図表 1-7 科学技術の集積（茨城県）】

◆つくばにおける科学技術の集積

- ・国等の試験研究機関（102 機関）のうち 31 機関（30.4%）民間を合わせると約 300 の研究機関が集積
- ・研究者数 20,739 人，うち日本人 16,011 人（博士号取得者 5,389 人），外国人 4,728 人（H20.1）

◆東海地区における科学技術の集積

- ・研究者数 2,800 人（外国人 168 人，博士号取得者約 1,000 人）
- ・原研東海 469 人，原研那珂 163 人，サイクル東海 203 人，サイクル大洗 214 人等

【図表 1-8 新成長戦略（基本方針）】

（5）科学・技術立国戦略

【2020 年までの目標】

『世界をリードするグリーン・イノベーションとライフ・イノベーション』、『独自の分野で世界トップに立つ大学・研究機関の数の増』、『理工系博士課程修了者の完全雇用を達成』、『中小企業の知財活用の促進』、『情報通信技術の活用による国民生活の利便性の向上、生産コストの低減』、『官民合わせた研究開発投資をGDP 比4%以上』

H21.12 閣議決定

【図表 1-9 特別支援学校児童生徒数の推移（茨城県）】

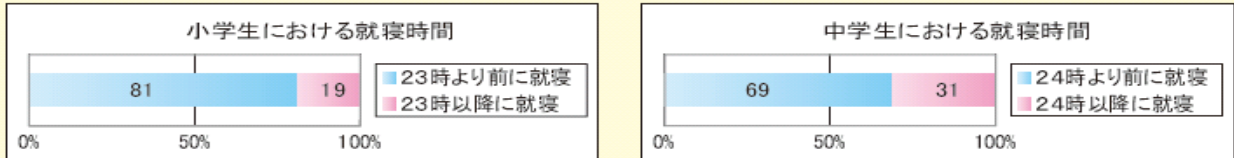
	H12	H21	増減	伸び率
視覚障害	72	49	-23	-0.32
聴覚障害	146	106	-40	-0.27
知的障害	1,855	2,617	762	0.41
肢体不自由	316	435	119	0.38
病弱	62	62	0	0
計	2,451	3,269	818	0.33

【図表1-10 児童生徒の問題行動（全国）】

【平成20年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文科省）結果概要より抜粋】
 暴力行為の発生件数は約6万件と3年連続で増加しており、小・中学校においては、調査開始以来、過去最高の件数を更新した。
 暴力行為の発生件数は、小学校6,484件（前年度より1,270件増加）、中学校42,754件（前年度より5,951件増加）、高等学校10,380件（前年度より359件減少）の合計59,618件（前年度より6,862件増加）。

- ・「対教師暴力」は8,120件（前年度より1,161件増加）。
- ・「生徒間暴力」は32,445件（前年度より4,049件増加）。
- ・「対人暴力」は1,724件（前年度より41件増加）。
- ・「器物損壊」は17,329件（前年度より1,611件増加）。

【図表1-11 小・中学生の就寝時間（全国）】



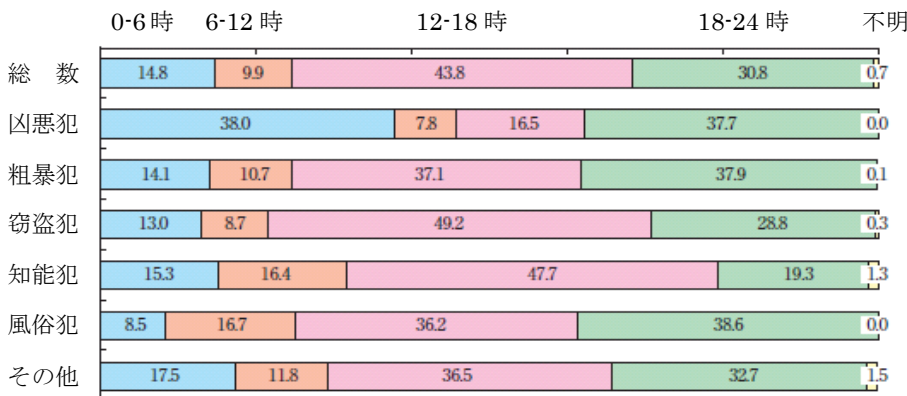
出典：文部科学省「平成20年度全国学力・学習状況調査」
 対象：小学6年生約116万人，中学3年生約108万人

【図表1-12 平成20年 刑法犯少年の原因・動機別検挙人員（全国）】

原因・動機	年									
	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総数(人)	141,721	132,336	138,654	141,775	144,404	134,847	123,715	112,817	103,224	90,966
利欲(%)	78.6	75.8	77.3	80.0	81.4	84.6	84.8	84.4	84.1	82.9
遊び・好奇心・スリル(%)	10.5	10.2	9.6	8.0	7.6	6.2	5.9	6.0	6.0	6.3
性的欲求(%)	0.7	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7
その他(%)	10.2	13.2	12.4	11.3	10.4	8.6	8.7	9.0	9.2	9.9
動機不明(%)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

出典：平成20年中における少年の補導及び保護の概況（警察庁）

【図表1-13 平成20年 刑法犯少年の罪種別、非行時間帯別構成比（全国）】



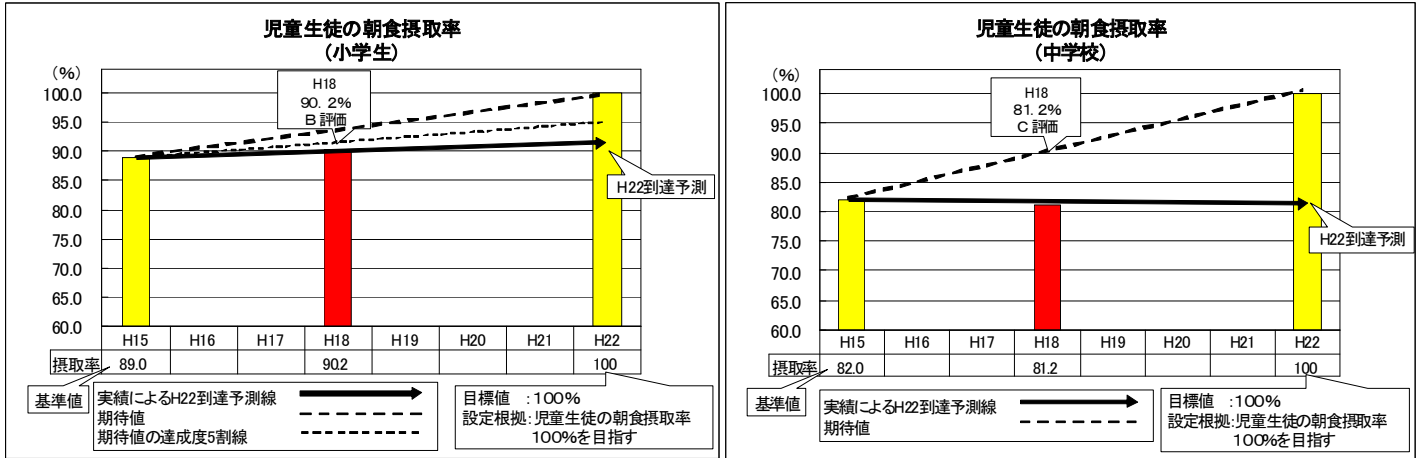
出典：平成20年中における少年の補導及び保護の概況（警察庁）

【図表1-14 小・中学生の体力（茨城県）】

		男子			女子		
		S60	H21	差	S60	H21	差
小6	50m走(秒)	8.9	8.9	0	9.1	9.1	0
	握力(kg)	21.3	20.5	↓0.8	20.3	20.1	↓0.2
	ソフトボール投げ(m)	32.3	30.1	↓2.2	20	18.3	↓1.7
中3	50m走(秒)	7.6	7.5	↑0.1	8.6	8.6	0
	握力(kg)	37.8	36.6	↓1.2	27.6	26.6	↓1.0
	ハンドボール投げ(m)	25.5	24.8	↓0.7	16.6	15.1	↓1.5
高3	50m走(秒)	7.3	7.5	↓0.2	8.8	9.3	↓0.5
	握力(kg)	47.2	42.9	↓4.3	29.5	27.3	↓2.2
	ハンドボール投げ(m)	29.2	26.8	↓2.4	17.2	14.5	↓2.7

出典：児童生徒の体力・運動能力報告書

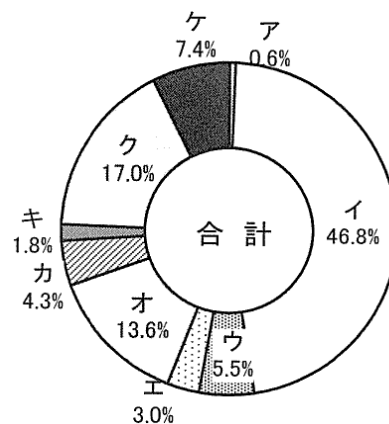
【図表1-15 朝食摂取率（茨城県）】



【図表1-16 高校生のニーズ（茨城県）】

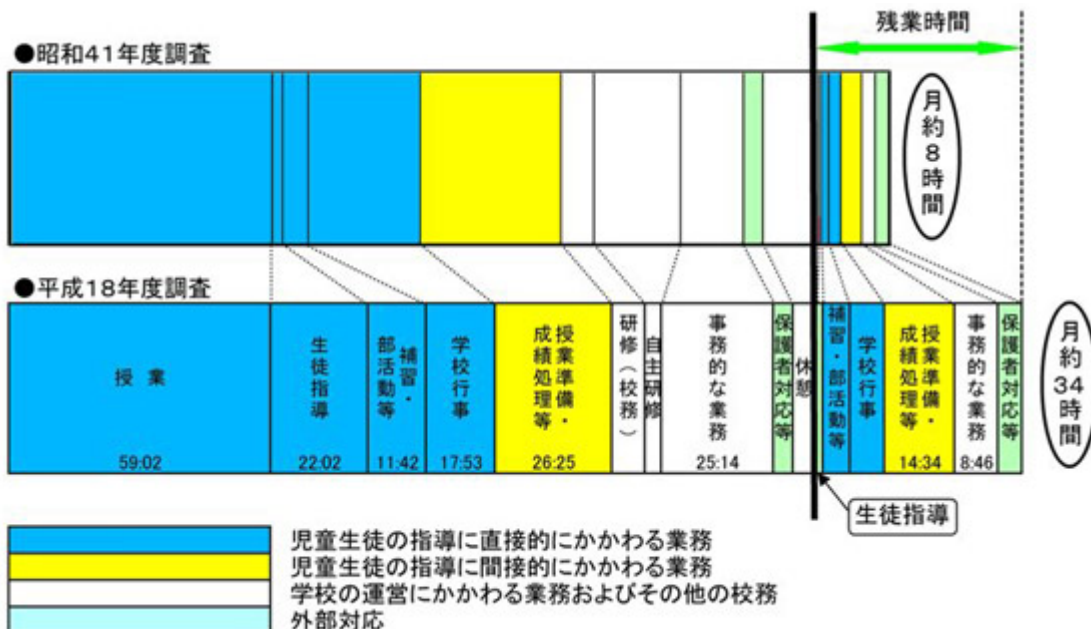
- 質問16 あなたが高校に進学した一番の理由は何ですか。
- ア 勉強が好きだから
 - イ 進学や就職にそなえるため
 - ウ 知識や技術を身につけるため
 - エ 教養を高め、人格を向上させるため
 - オ 将来の生活に役立つと思うから
 - カ 親や先生にすすめられたから
 - キ 友人が行くから
 - ク 特に理由はない
 - ケ その他

16	課程別		合計
	全日制	定時制	
回答数計	3,376	280	3,656
ア	0.5%	1.1%	0.6%
イ	47.7%	35.4%	46.8%
ウ	5.5%	6.1%	5.5%
エ	2.7%	6.1%	3.0%
オ	13.2%	17.5%	13.6%
カ	3.8%	10.7%	4.3%
キ	1.8%	2.1%	1.8%
ク	17.4%	11.8%	17.0%
ケ	7.3%	9.3%	7.4%

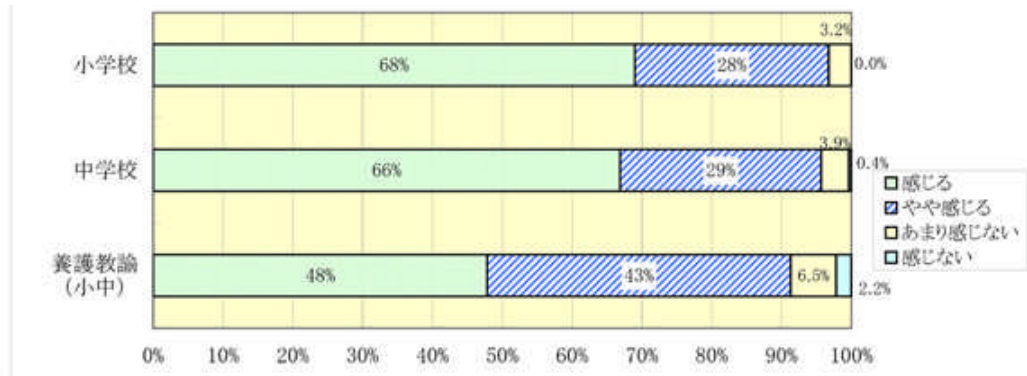


出典：平成20年度県立高等学校生徒意識実態調査

【図表1-17 教員1か月あたりの勤務実態（公立小中学校教諭の全国平均）】

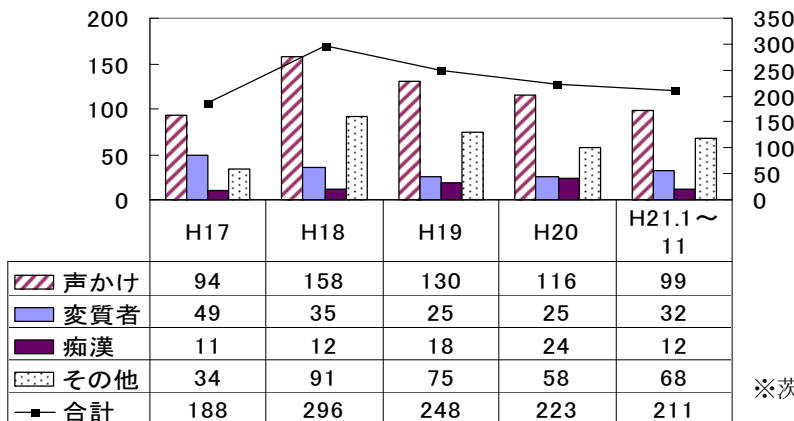


【図表1-18 教諭や養護教諭が忙しいと感じる割合（茨城県）】



出典：県教育委員会が平成20年度に行ったアンケート結果（県内小中学校の教員約1,000人対象）

【図表1-19 子ども（小学生以下）に対する不審者情報の推移（茨城県）】

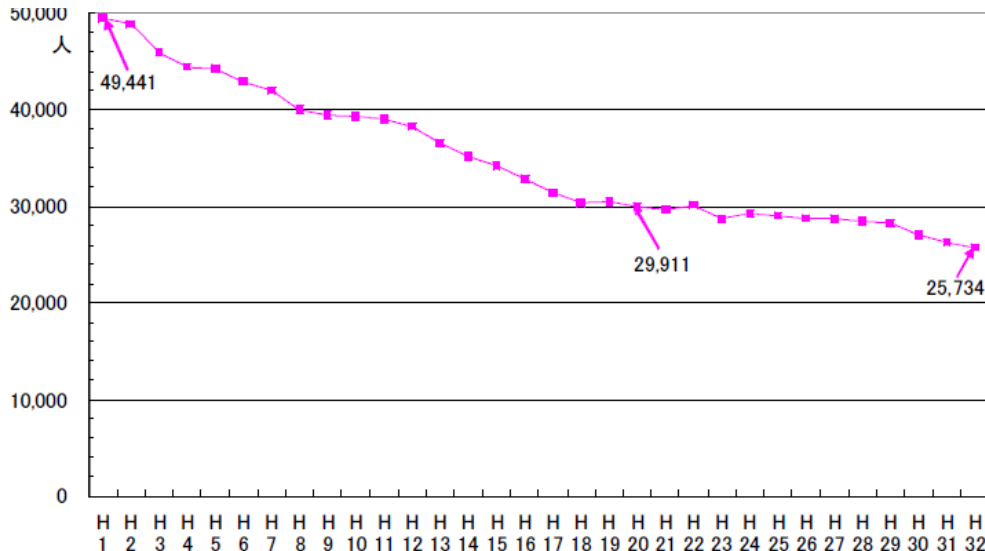


※茨城県警察本部提供データ

【図表1-20 公立学校施設の耐震改修状況調査結果（茨城県）】 (H21.4.1現在)

	耐震診断実施率		耐震化率	
	本県(前年比)	全国平均	本県(前年比)	全国平均
小中学校	88.4%(+7.6%)(全国45位)	95.7%	50.5%(+4.0%)(全国45位)	67.0%
高等学校	77.9%(+13.8%)(全国40位)	93.1%	62.7%(+5.2%)(全国25位)	67.8%
特別支援学校	68.6%(+12.9%)(全国45位)	95.5%	70.7%(+2.8%)(全国37位)	82.8%
幼稚園	56.7%(-0.7%)(全国34位)	79.1%	33.1%(+3.1%)(全国43位)	60.1%

【図表1-21 中学校卒業（見込み）者数の推移（茨城県）】



出典：第2次県立高等学校再編整備の基本計画（茨城県教育委員会・H21.7）

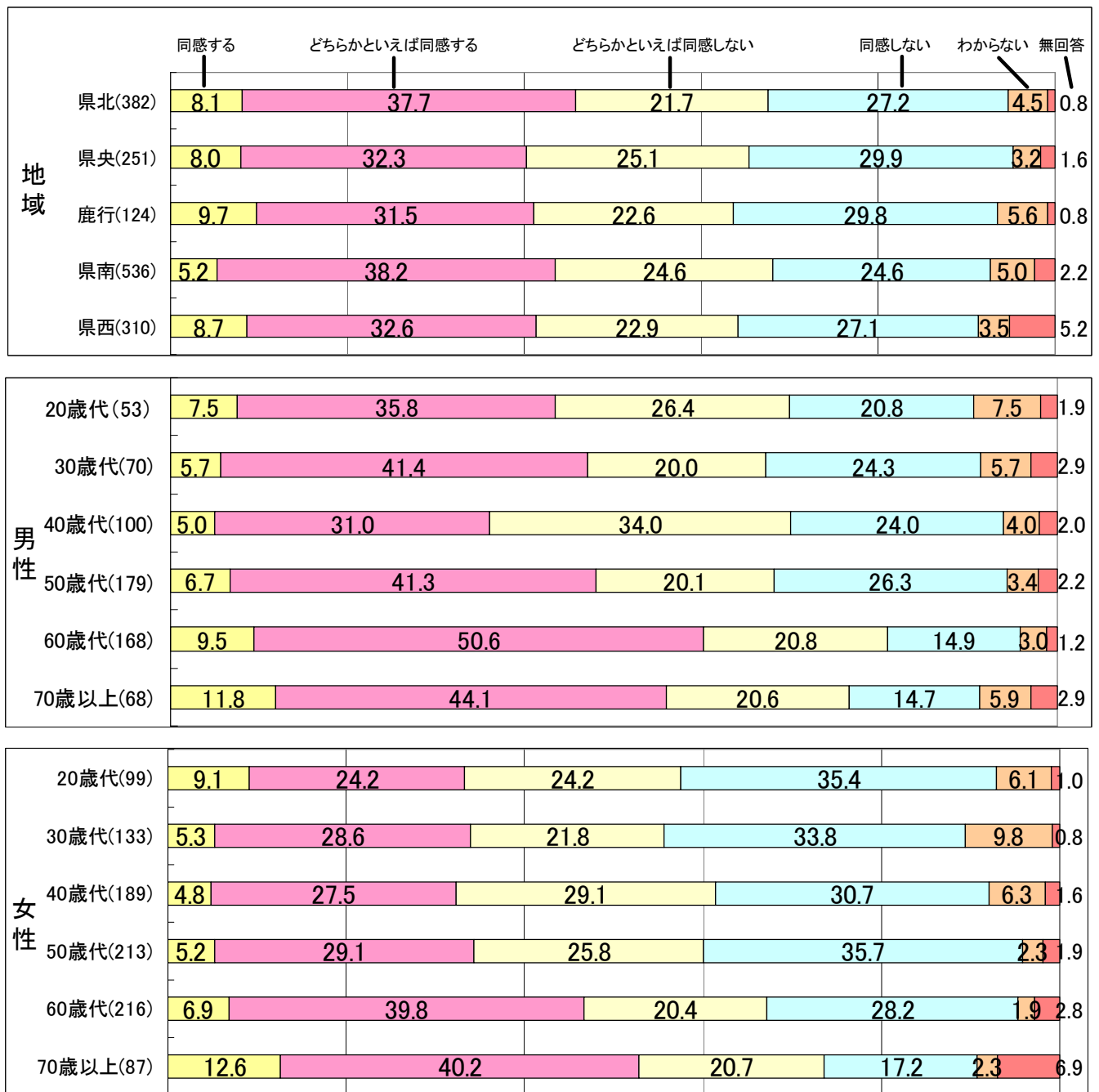
【図表2-1 性別役割分担意識「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない割合（茨城県）】

	男性	女性	全体
平成17年	39.3%	56.4%	48.6%
平成21年	44.1%	54.7%	50.2%

※「同感しない」又は「どちらかといえば同感しない」と回答した割合

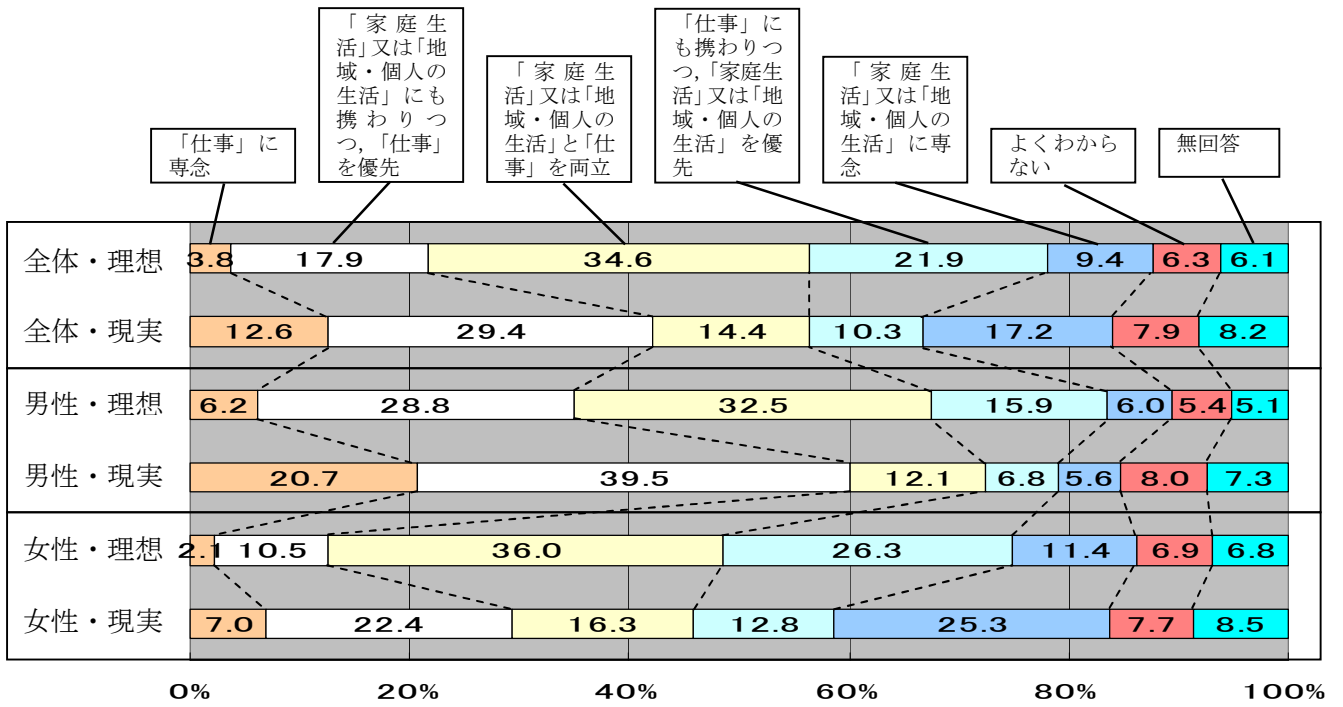
出典：茨城県男女共同参画社会県民意識調査結果（H17, H21）

【図表2-2 地域、性・年代ごとの性別役割分担意識（茨城県）】



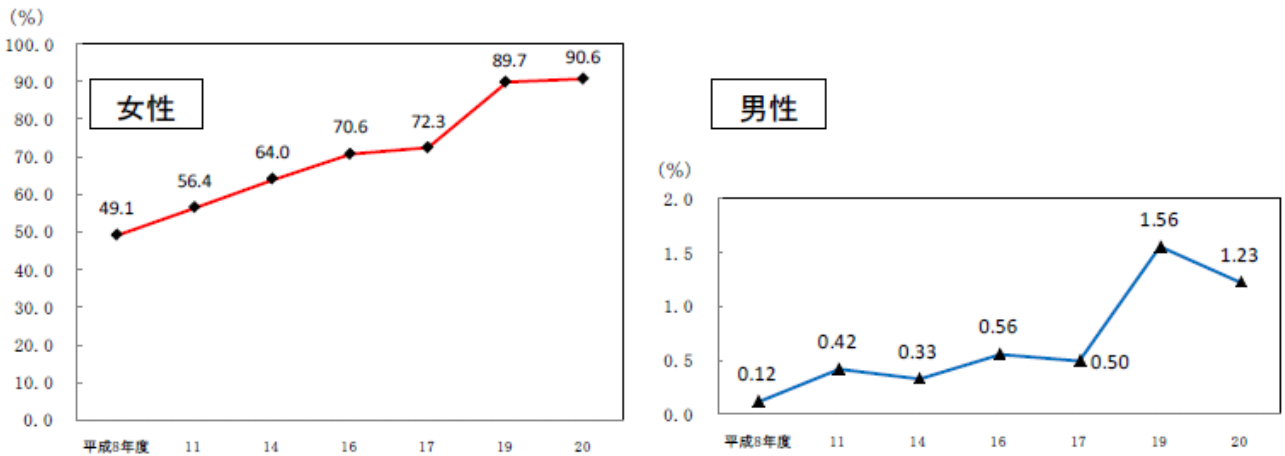
出典：茨城県男女共同参画社会県民意識調査結果（H21）より作成

【図表2-3 仕事と生活の調和の理想と現実（茨城県）】



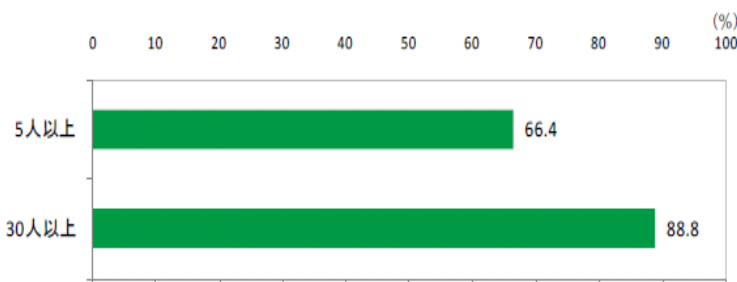
出典：茨城県男女共同参画社会県民意識調査結果（H21）

【図表2-4 育児休業取得率（全国）】

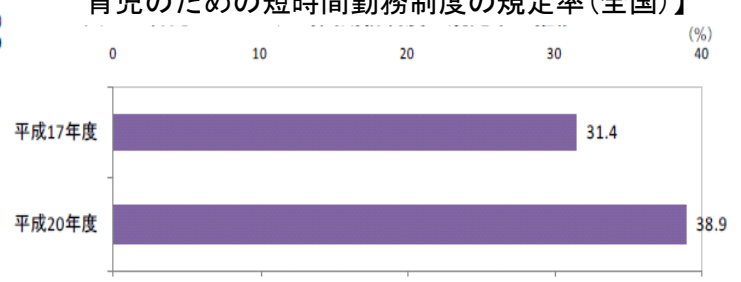


出典：平成20年度雇用均等基本調査（厚生労働省）

【図表2-5 事業所規模別育児休業制度規定率（全国）】



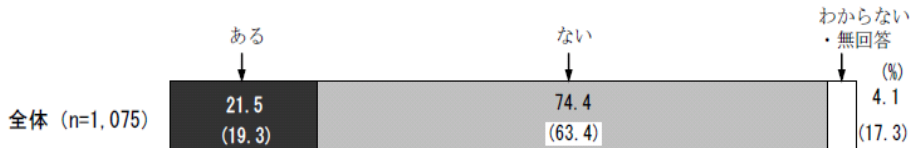
【図表2-6 育児のための短時間勤務制度の規定率（全国）】



出典：平成20年度雇用均等基本調査（厚生労働省）

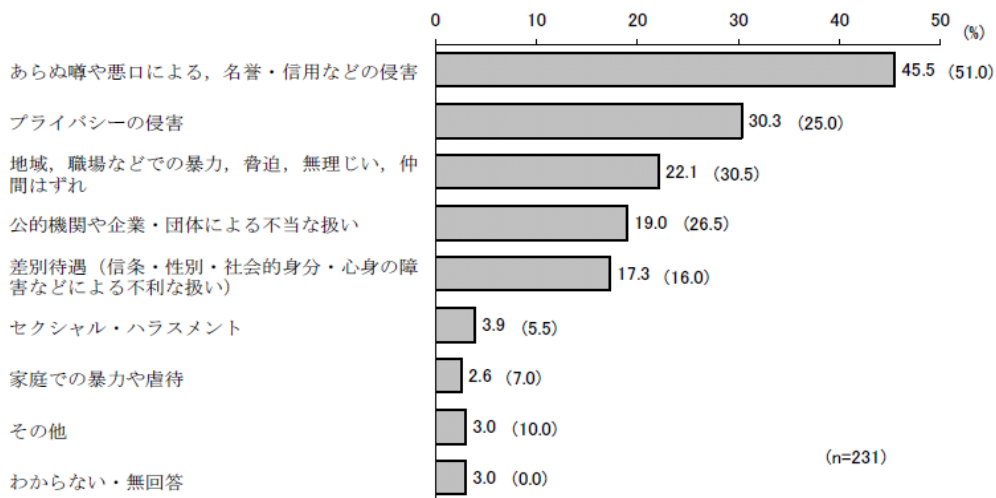
【図表2-7 人権を侵害された状況（茨城県）】

あなたは、自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成17年の調査結果

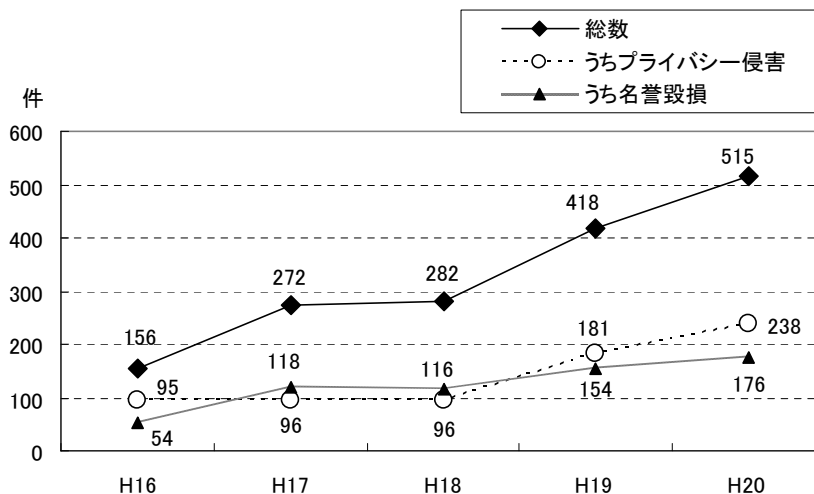
それはどのような場合ですか。差し支えがなければお聞かせください。次の中であてはまるものをすべて選んでください。



※()内の数値は、平成17年の調査結果

出典：県政世論調査（平成20年9月）

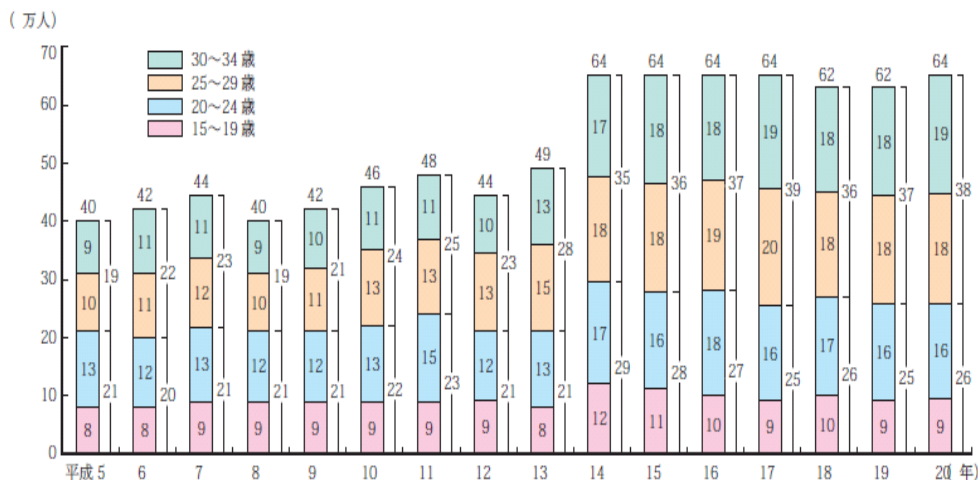
【図表2-8 インターネットを利用した人権侵犯事件の推移（全国）】



※H16は4～12月の集計

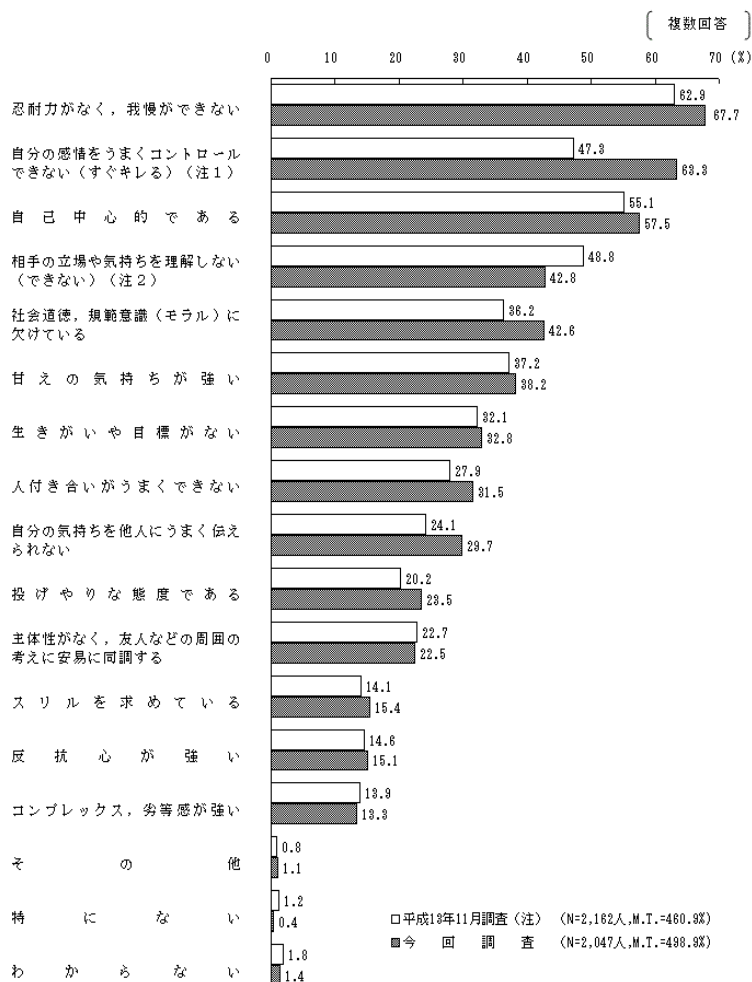
出典：平成20年における「人権侵犯事件」の状況について（法務省）

【図表3-1 若年無業者数（全国）】



出典：平成21年版青少年白書（内閣府）

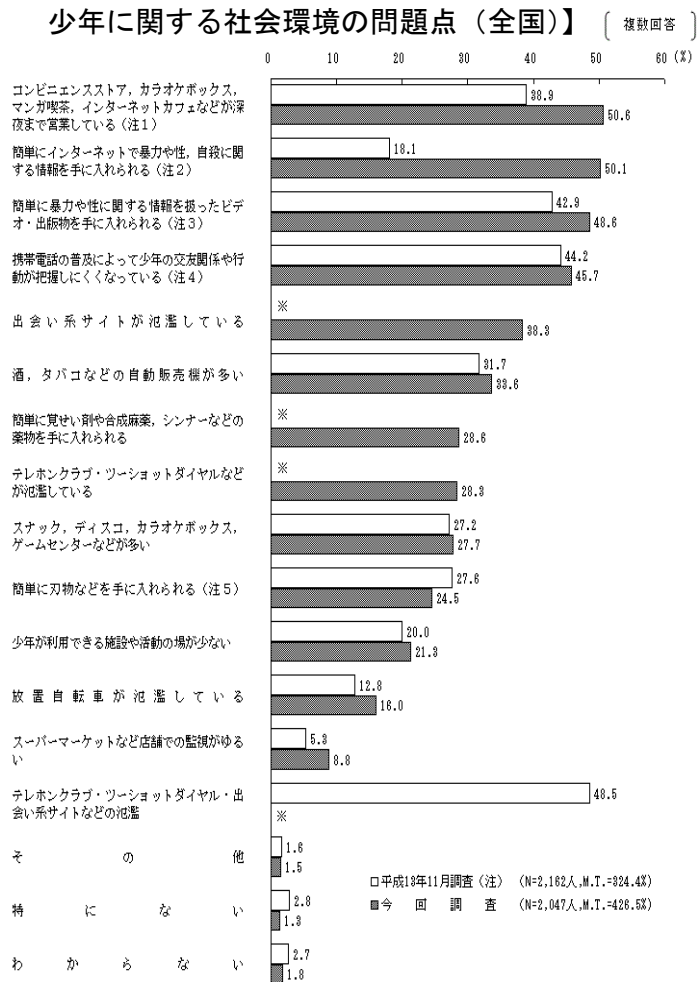
【図表3-2 少年の問題点（全国）】



（注）平成18年11月調査では、「あなたは、少年自身について、何か問題だと思う点がありますか。」と聞いている。
 （注1）平成18年11月調査では、「自分の感情をうまくコントロールできない」となっている。
 （注2）平成18年11月調査では、「人の痛みを感じない」となっている。

【図表3-3

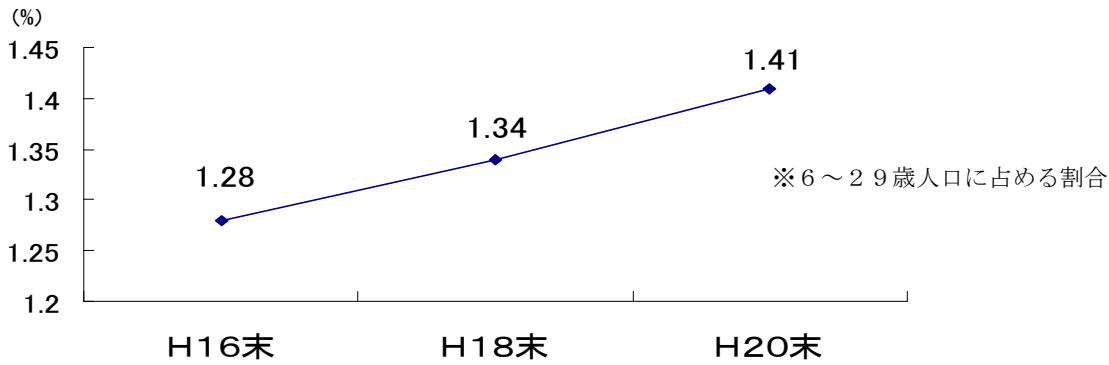
少年に関する社会環境の問題点（全国）】



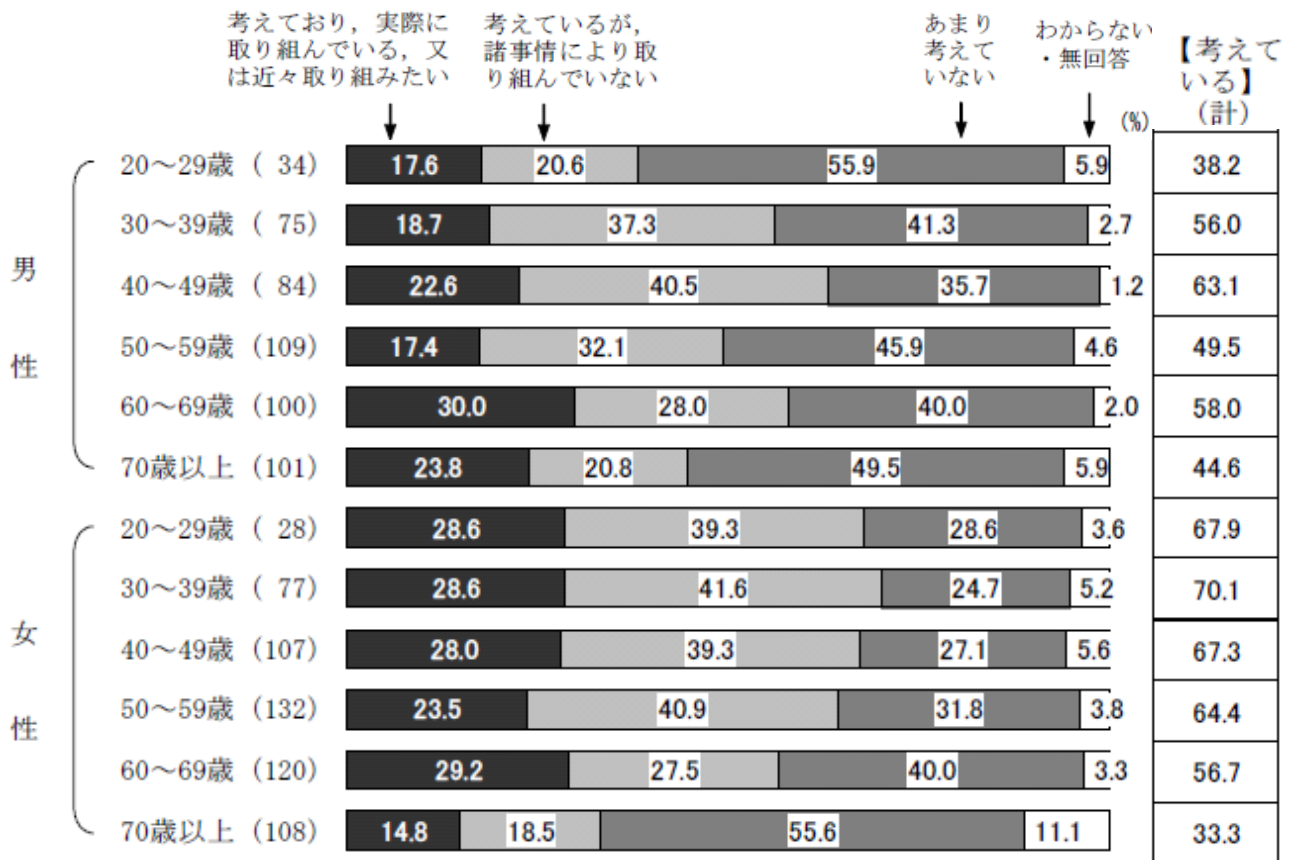
（注）平成18年11月調査では、「非行を招くような社会環境について、何か問題だと思う点がありますか。」と聞いている。
 （注1）平成18年11月調査では、「コンビニエンスストア、カラオケボックスなどが深夜まで営業している」となっている。
 （注2）平成18年11月調査では、「インターネットの普及」となっている。
 （注3）平成18年11月調査では、「暴力や性に関する情報を扱ったビデオ・出版物の氾濫」となっている。
 （注4）平成18年11月調査では、「携帯電話の普及」となっている。
 （注5）平成18年11月調査では、「少年でも簡単に刃物などを手に入れられる環境である」となっている。

出典：少年非行等に関する世論調査（H17 内閣府）

【図表3-4 ボランティアサークル・青少年団体・青少年関係NPO加入者割合（茨城県）】

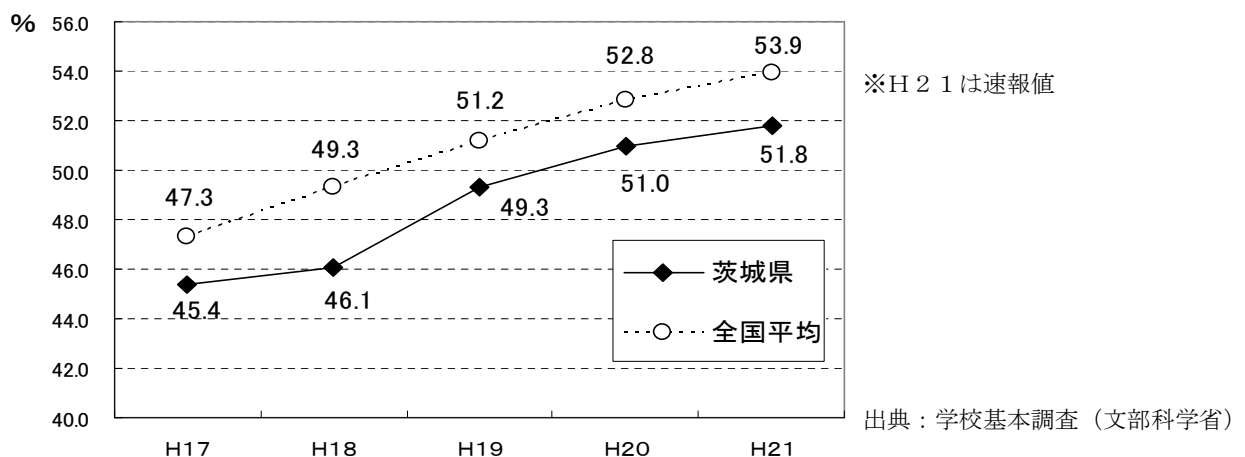


【図表3-5 性別・年代別社会貢献に対する意識（茨城県）】

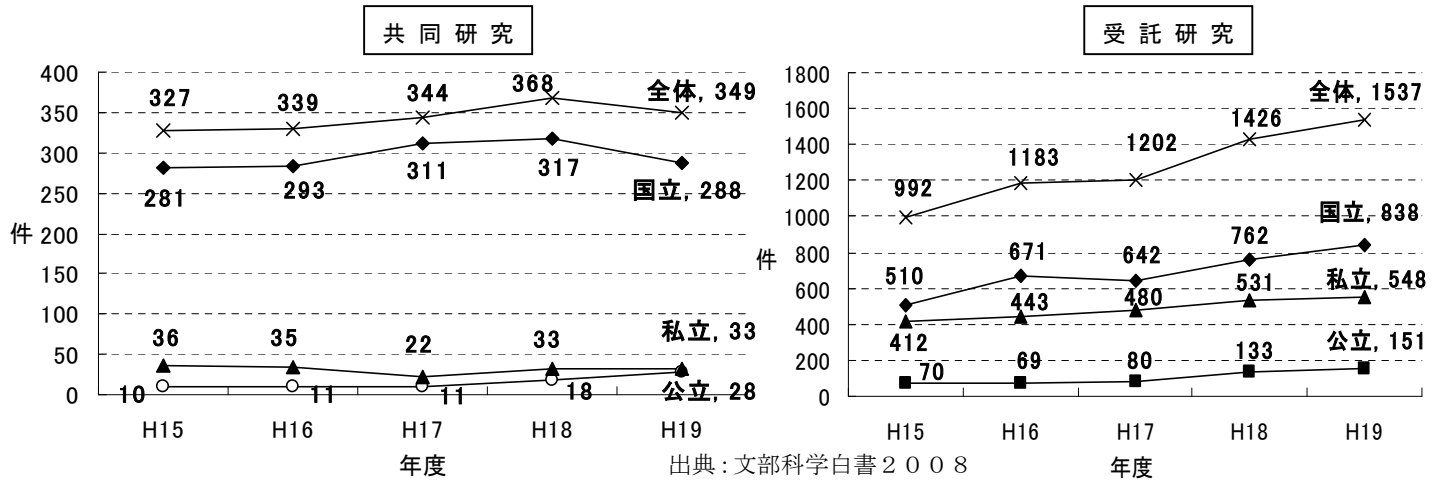


出典：県政世論調査（平成20年9月）

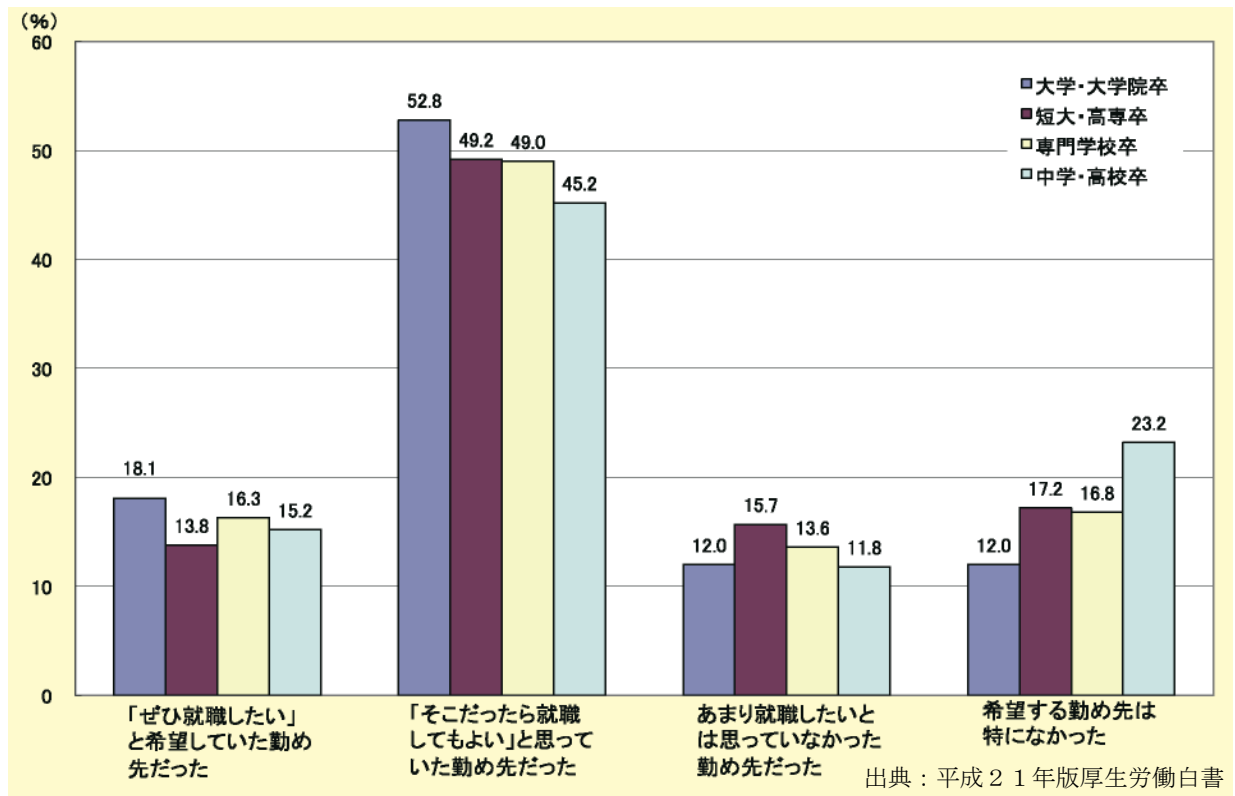
【図表3-6 大学等進学率（全国・茨城県）】



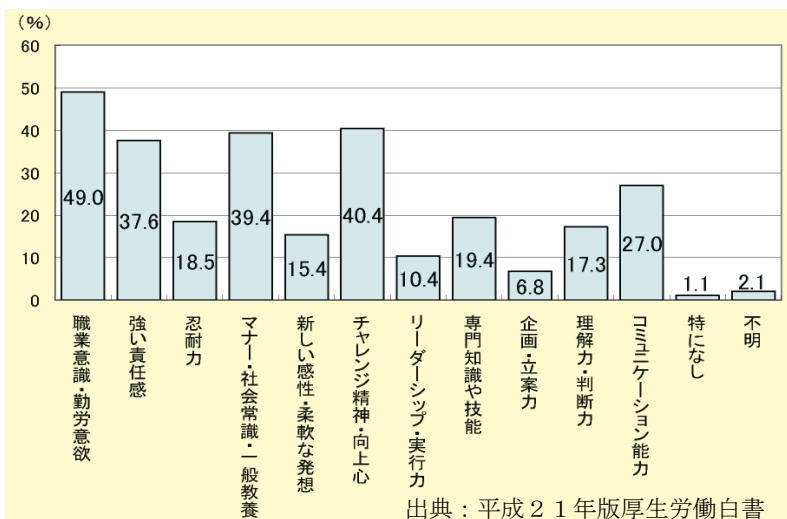
【図表3-7 大学等と地方公共団体との連携状況（全国）】



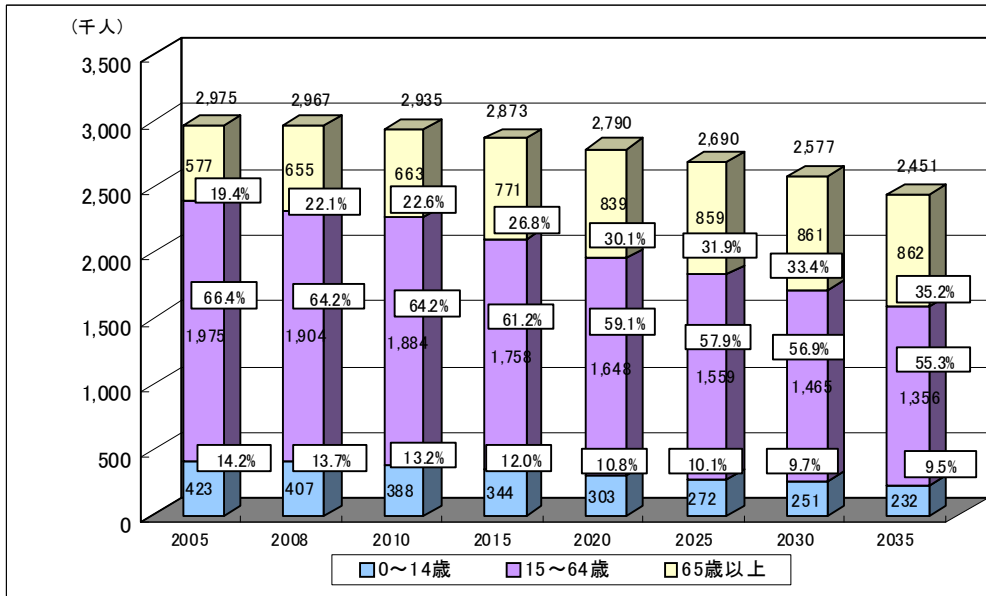
【図表3-8 学校を卒業した直後、最初に就いた「勤め先」について（全国）】



【図表3-9 若年正社員に望むことや身につけて欲しい能力（全国）】



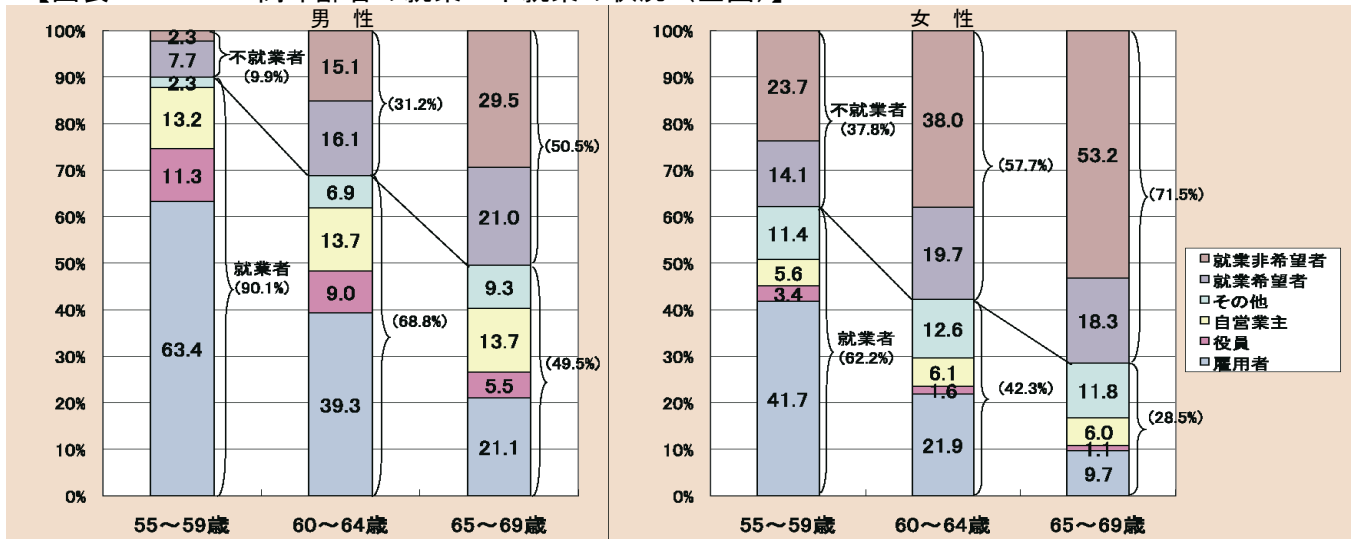
【図表3-10 生産年齢人口の減少（茨城県）】



出典：

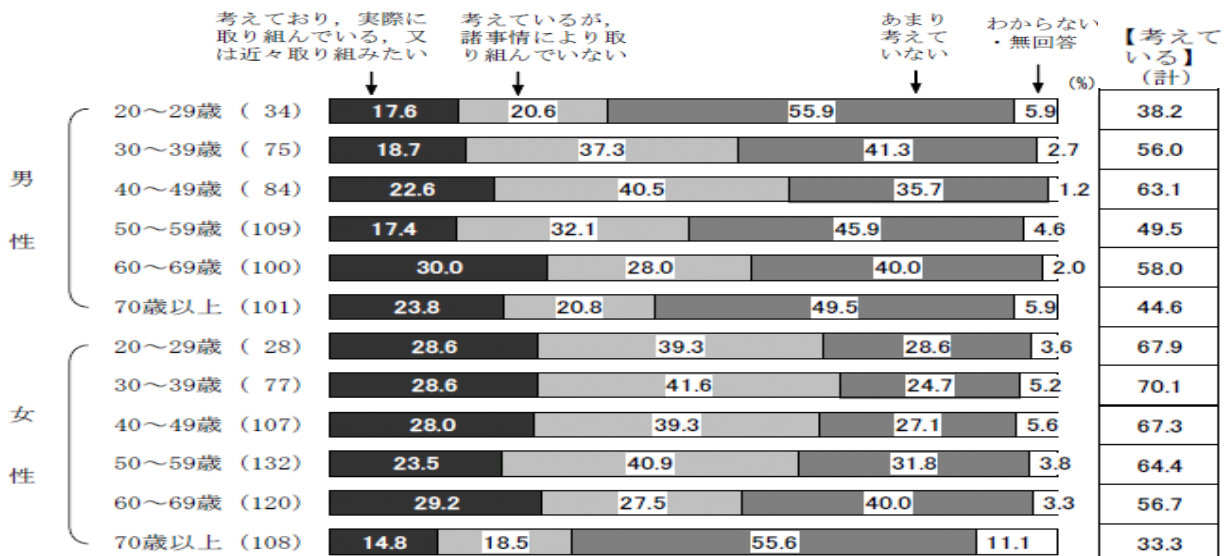
- ・「都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」国立社会保障・人口研究所
- ・茨城の年齢別人口（茨城県常住人口調査結果）四半期報

【図表3-11 高齢者の就業・不就業の状況（全国）】



出典：平成21年版厚生労働白書

【図表3-12（図表3-5の再掲） 性別・年代別社会貢献に対する意識（茨城県）】



出典：県政世論調査（平成20年9月）

【図表3-13 外国人労働者数上位10都道府県】(平成20年10月末現在)

順位	都道府県	外国人労働者数(人)		構成比(%)
			うち派遣・請負事業所(比率)	
1	東京都	118,488	30,712 (25.9)	24.4
2	愛知県	60,326	24,626 (40.8)	12.4
3	静岡県	31,453	24,240 (64.3)	6.5
4	神奈川県	27,473	10,528 (38.3)	5.6
5	大阪府	24,065	5,252 (21.8)	4.9
6	岐阜県	18,571	11,033 (59.4)	3.8
7	埼玉県	18,251	5,757 (31.5)	3.8
8	三重県	14,839	7,811 (52.6)	3.1
9	広島県	13,196	4,346 (32.9)	2.7
10	茨城県	12,383	4,039 (32.6)	2.5
	その他	147,353	38,852 (26.4)	30.3
	合計	486,398	163,196 (33.6)	100

出典：「外国人雇用状況の届出状況について」(厚生労働省)

※外国人雇用状況の届出制度については、平成19年10月1日から施行。

【図表3-14 在留資格別外国人労働者数(全国・茨城県)】

(平成20年10月末現在)

在留資格	全国		茨城県	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
専門的・技術的分野の在留資格	84,878	17.5	1,212	9.8
(うち技術)	(27,303)	(5.6)	(230)	(1.9)
(うち人文知識・国際業務)	(32,422)	(6.7)	(233)	(1.9)
特定活動	94,769	19.5	4,136	33.4
資格外活動	82,931	17.1	676	5.5
留学・就学	70,833	14.6	526	4.2
その他	12,098	2.5	150	1.2
身分に基づく在留資格	223,820	46.0	6,359	51.4
永住者	92,441	19.0	1,942	15.7
日本人の配偶者等	57,439	11.8	1,721	13.9
永住者の配偶者等	3,045	0.6	57	0.5
定住者	70,895	14.6	2,639	21.3
合計	486,398	100.0	12,383	100.0

出典：「外国人雇用状況の届出状況について」(厚生労働省)

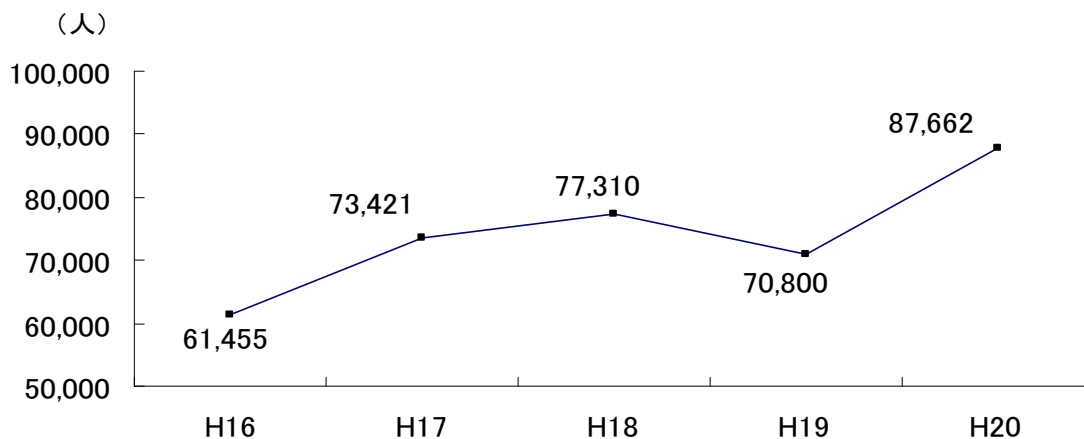
【図表3-15 都市別国際会議の開催状況(全国)】 【図表3-16 会場別国際会議の開催状況(全国)】

H20順位	都市	H16	H17	H18	H19	H20
1	東京23区	428	357	460	440	480
2	横浜市	82	105	103	157	184
3	福岡市	76	97	126	151	172
4	京都市	170	137	154	183	171
5	名古屋市	89	108	109	109	130
6	神戸市	44	58	76	89	94
7	つくば地区	56	60	64	82	80
8	大阪市	94	89	111	76	77
9	札幌市	65	54	48	44	77
10	千葉市	59	38	39	42	67

開催件数 順位	会場	開催件数	外国人 参加者数	国内 参加者数	参加者数 総数
1	パシフィコ横浜	97	16,275	181,132	198,885
2	九州大学	67	1,305	9,541	10,846
3	京都大学	64	3,389	7,822	11,211
4	つくば国際会議場	48	2,305	17,714	20,019
5	名古屋大学	48	1,226	7,540	8,766
6	経団連会館	36	1,005	6,630	7,635
7	国立京都国際会館	34	6,165	32,287	38,452
8	福岡国際会議場	33	1,635	52,874	54,509
9	幕張メッセ	33	3,815	39,378	43,193
10	北海道大学	30	2,034	12,084	14,118

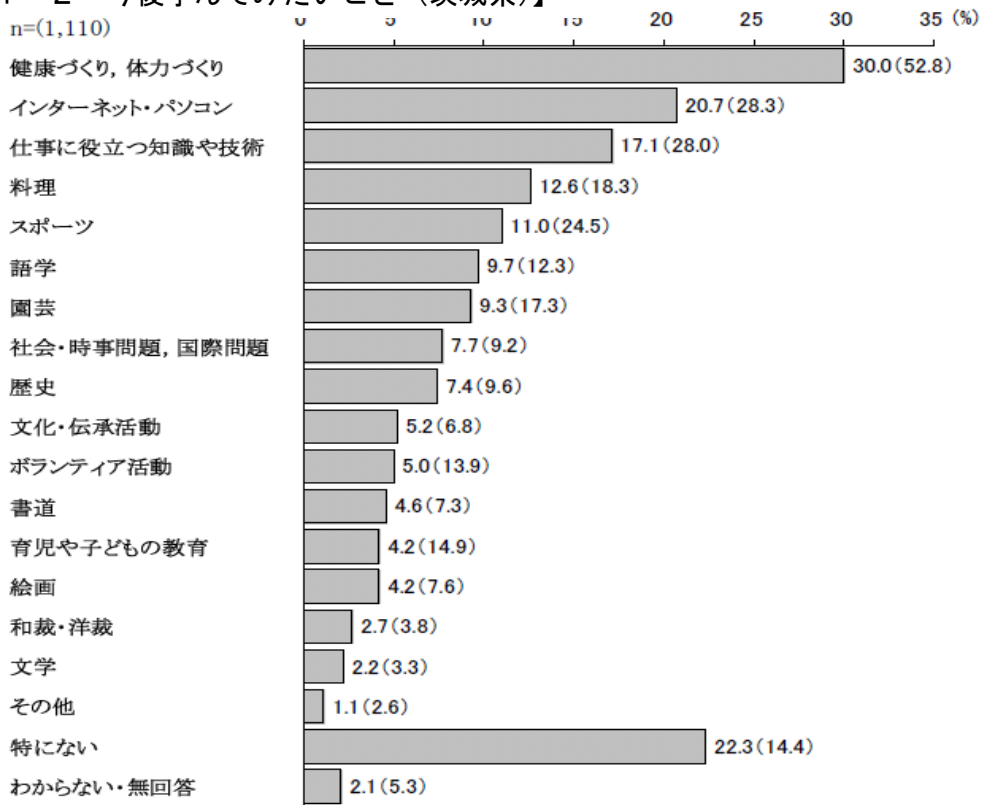
出典：2008年国際会議統計(日本政府観光局)

【図表4-1 茨城県弘道館アカデミー受講者数】



※弘道館アカデミー：県が実施する講座，研修会，イベント等の総称

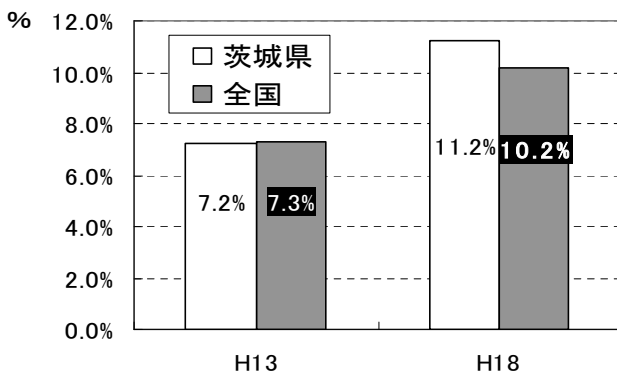
【図表4-2 今後学んでみたいこと（茨城県）】



出典：県政世論調査（平成21年9月）

※（ ）内の数値は，平成17年の調査結果

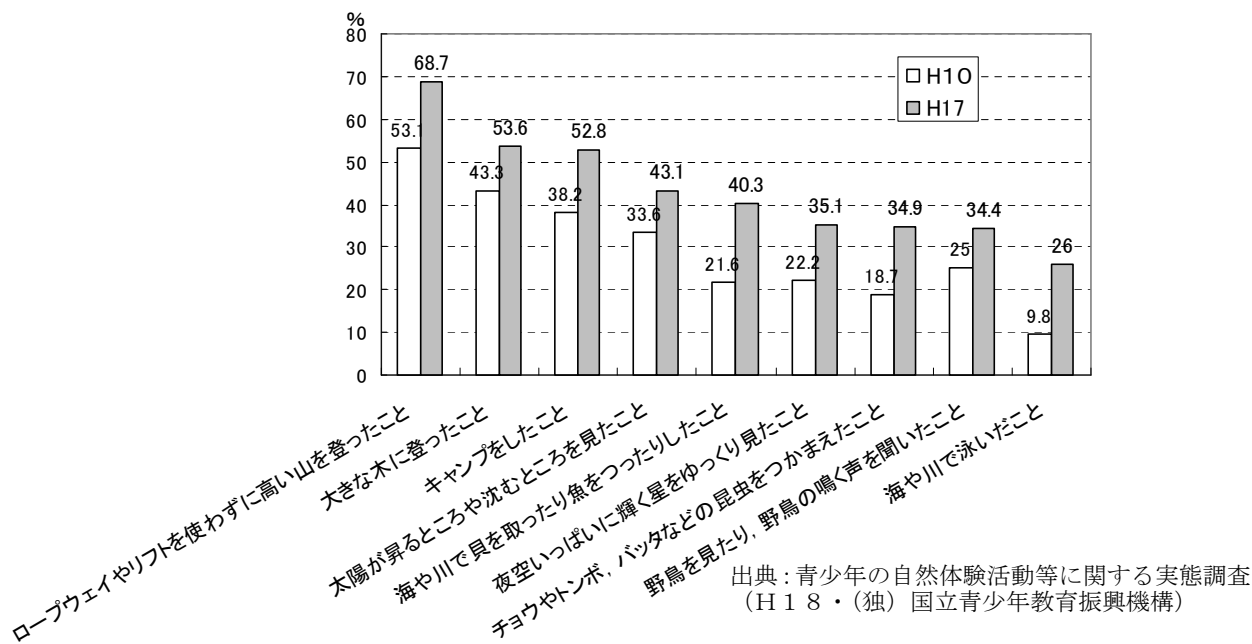
【図表4-3 芸術・文化活動を行った人の割合】



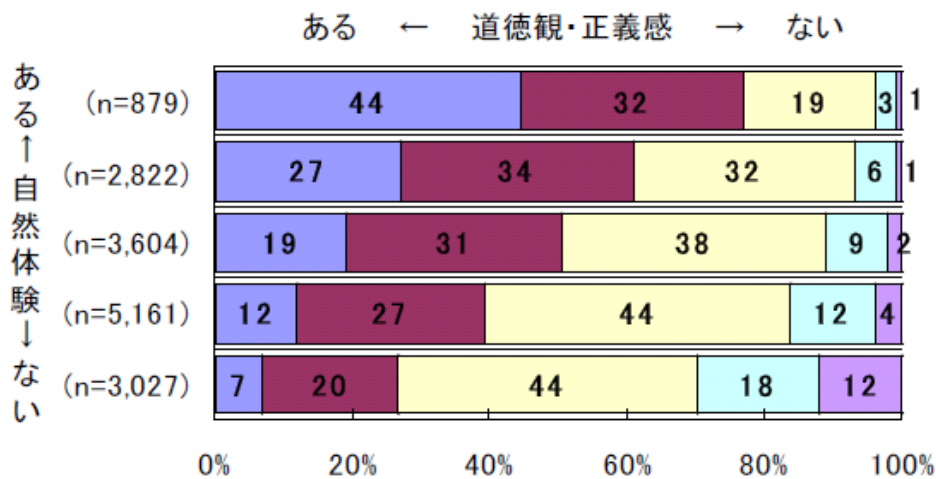
※個人の自由時間の中で行う学習・研究のうち芸術・文化活動を行った人の割合

出典：社会生活基本調査（総務省）

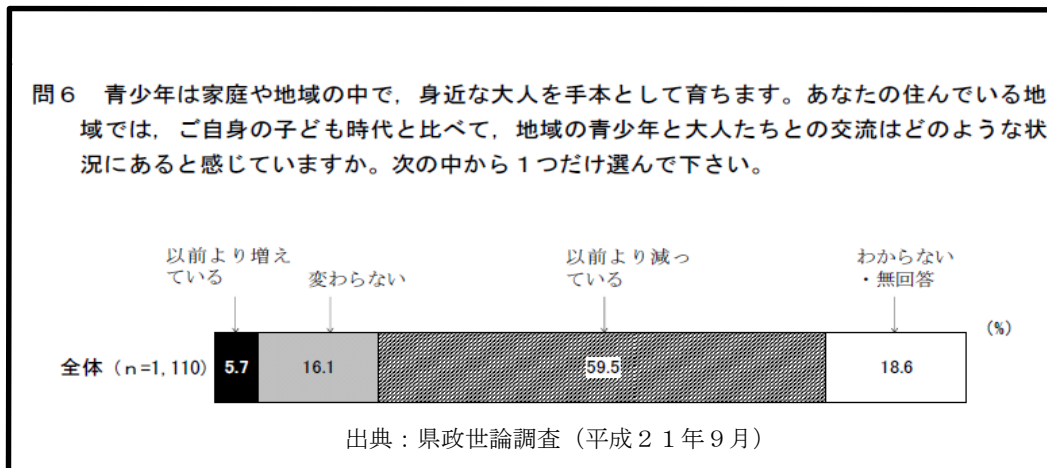
【図表4-4 「ほとんどしたことがない」自然体験の内容（全国小4・小6・中2）】



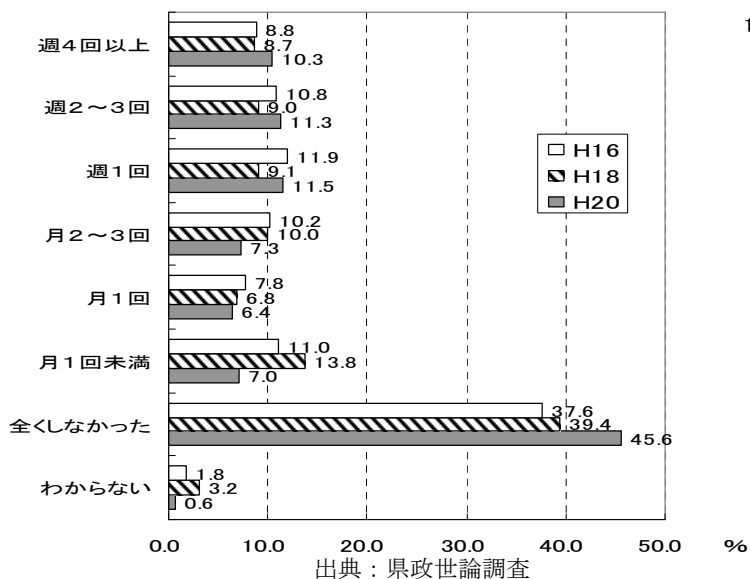
【図表4-5 自然体験と道徳観・正義感の関係（全国小4・小6・中2）】



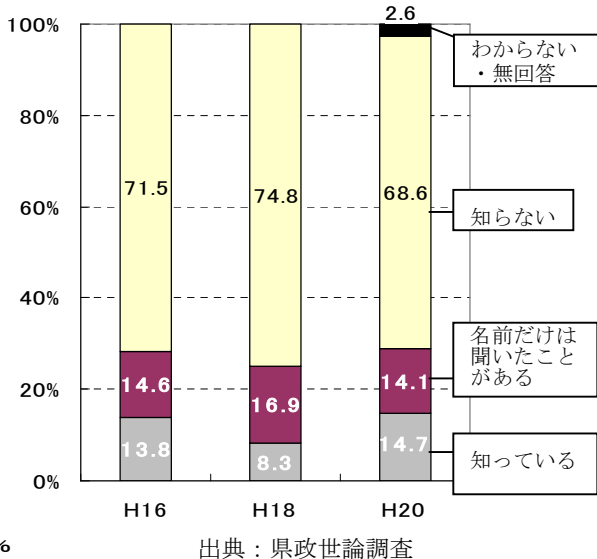
【図表4-6 (図表1-2再掲) 地域の青少年と大人たちとの交流（茨城県）】



【図表4-7 1年間に実施したスポーツの頻度（茨城県）】



【図表4-8 総合型地域スポーツクラブの認知度（茨城県）】



【図表4-9 県外の友人等を連れて行きたい観光・レクリエーション（茨城県）】

